

日常・災害時の区会活動と情報伝達に関する アンケート調査業務

(調査報告書)

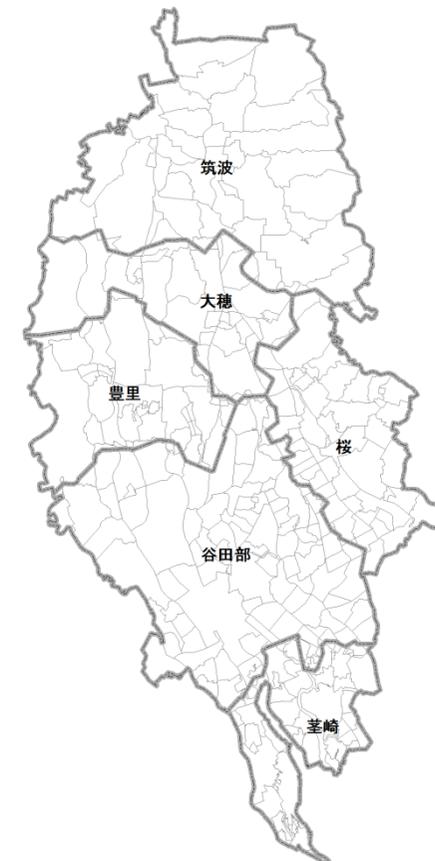
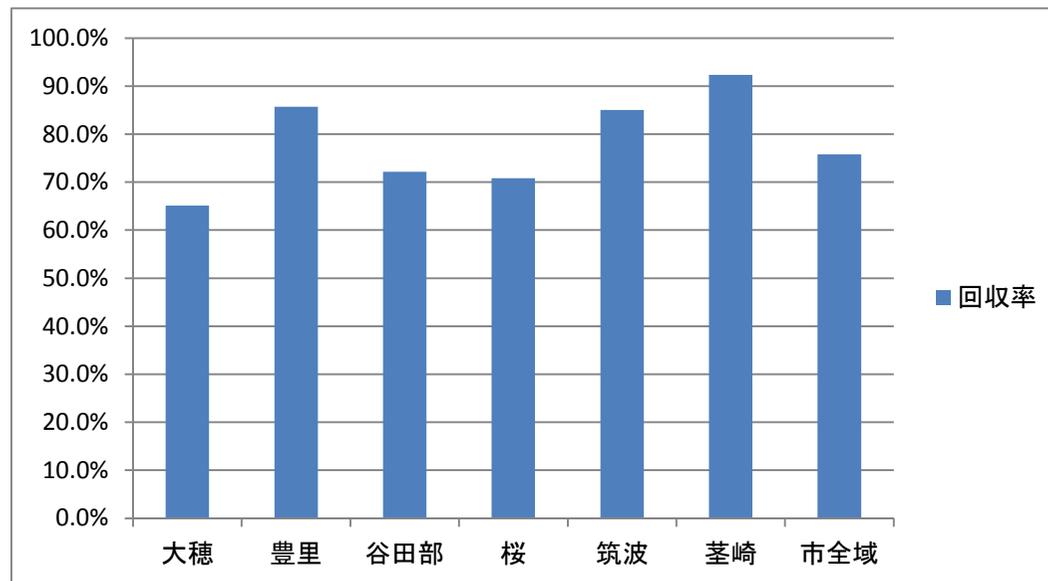
2011年12月

- 【実施機関】 筑波大学大学院システム情報工学研究科
つくば市市民部市民活動課
- 【事務局】 株式会社 プレイスメイキング研究所

アンケート回収率

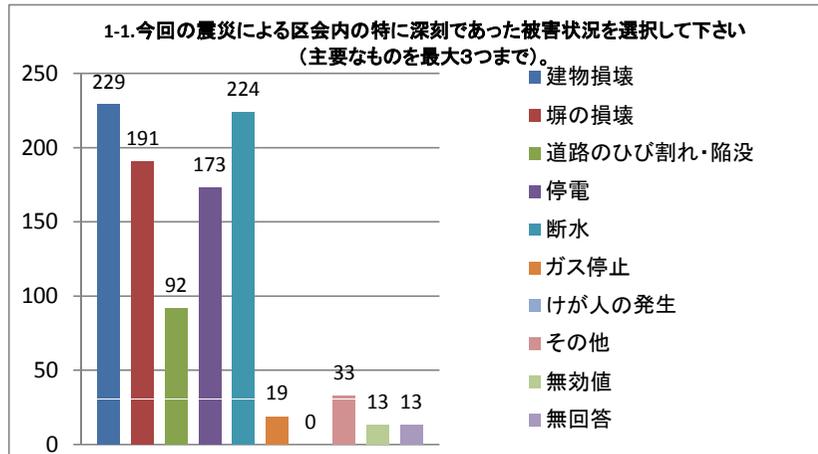
地区	区会数	回収数	回収率
大穂	43	28	65.1%
豊里	70	60	85.7%
谷田部	237	171	72.2%
桜	120	85	70.8%
筑波	60	51	85.0%
茎崎	39	36	92.3%
市全域	569	431	75.7%

- 配布:569区会(31準区会を除く)
- 市全域で75.7%(431通)の回収率
- 大穂地区はやや低く65%程度



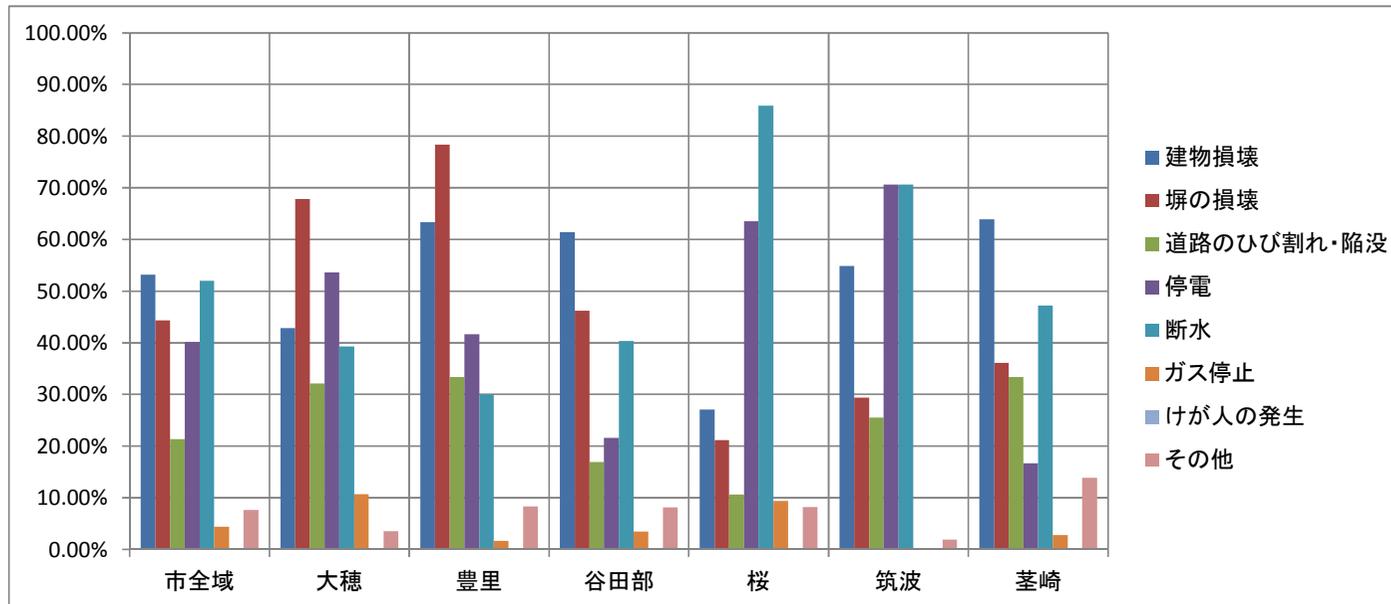
1-1. 今回の震災による区会内の特に深刻であった被害状況を選択して下さい(主要なものを最大3つまで)

■市全域の実数値



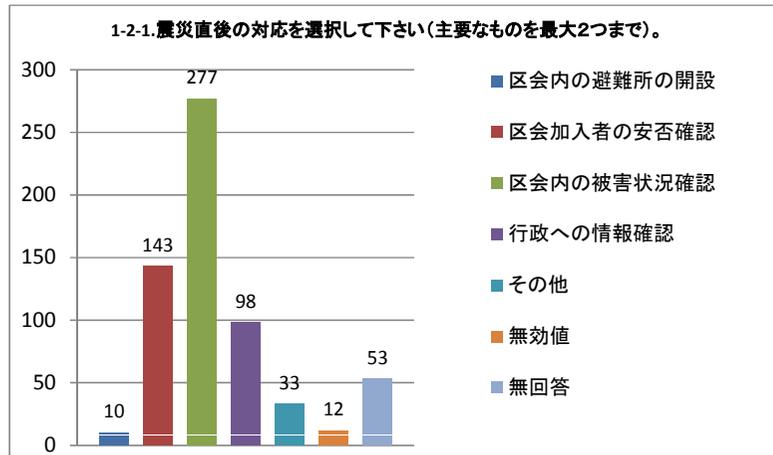
- 市全域では「建物や塀の損壊」、「断水」などが多い。
- 地区別では、大穂・豊里地区で「塀の損壊」、谷田部・荃崎地区で「建物損壊」が目立つ。また桜・筑波地区では「停電と断水」の回答数が多い。

■地区別の割合



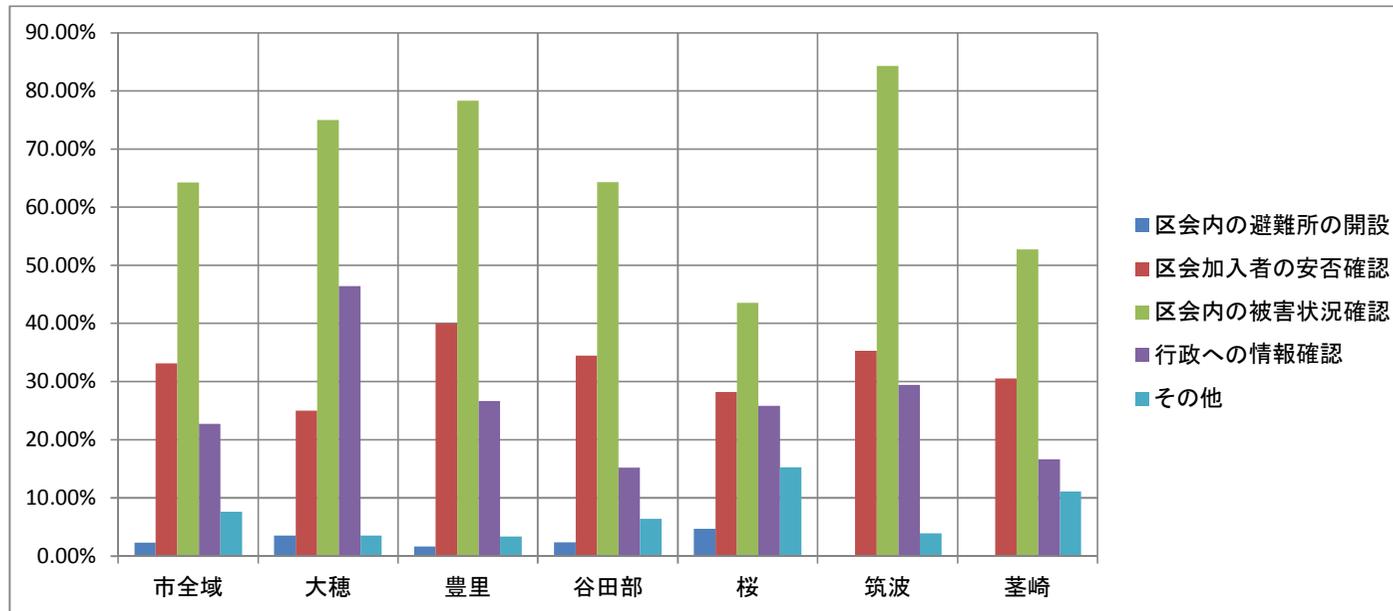
1-2-1.震災直後の対応を選択して下さい (主要なものを最大2つまで)

■市全域の実数値



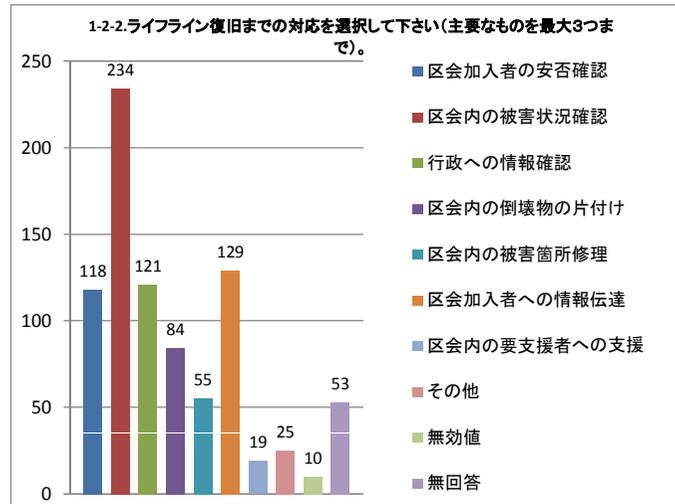
- 市全域および各地区を通じて、「区会内の被害状況確認」が最も多い。
- 大穂地区では「行政への情報確認」が多いのも特徴である。

■地区別の割合



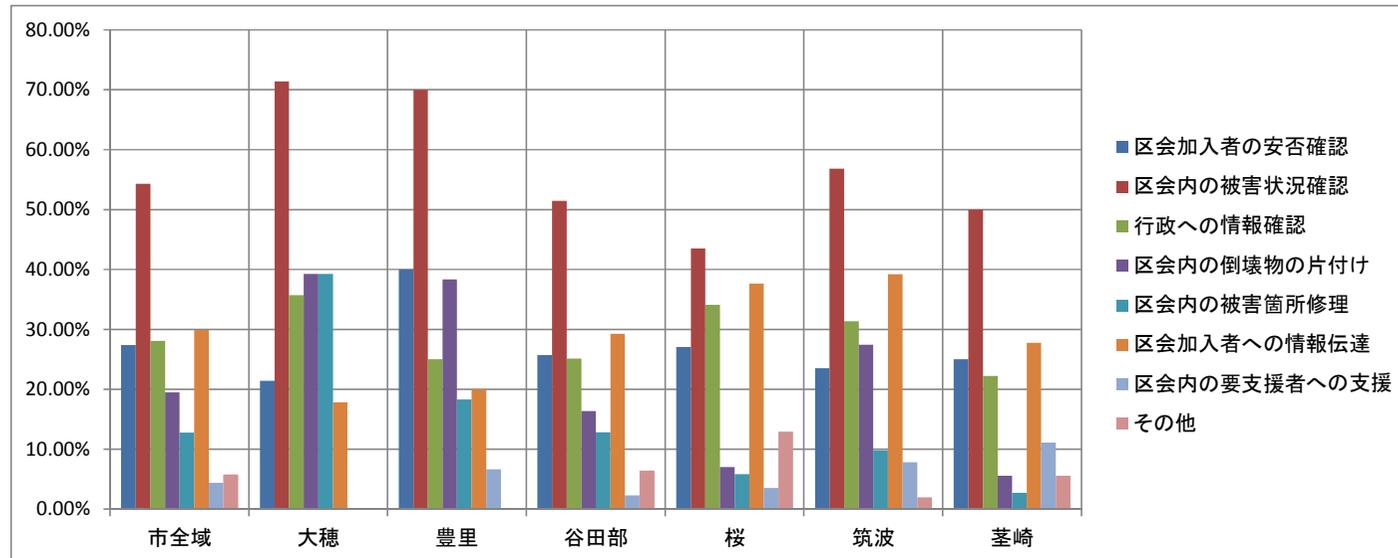
1-2-2.ライフライン復旧までの対応を選択して下さい (主要なものを最大3つまで)

■市全域の実数値



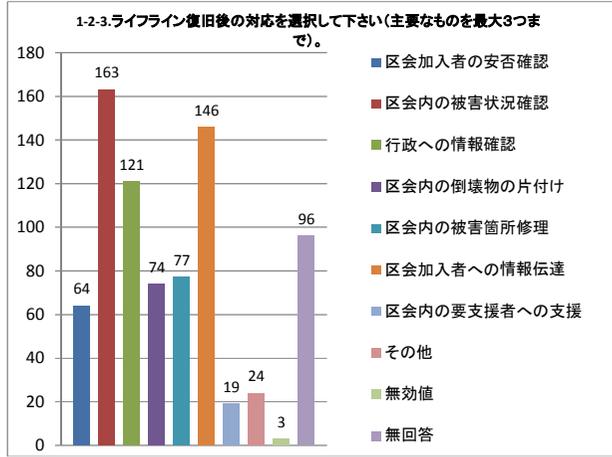
- 市全域、各地区とも「区会内の被害状況確認」が最も多い。
- 桜・筑波地区では「区会加入者への情報伝達」が多いのに比べ、大穂・豊里地区では、「区会内の倒壊物の片付け」が多い。
- 大穂・豊里地区で、「塀の倒壊」が多かった事と関係するかもしれない。

■地区別の割合



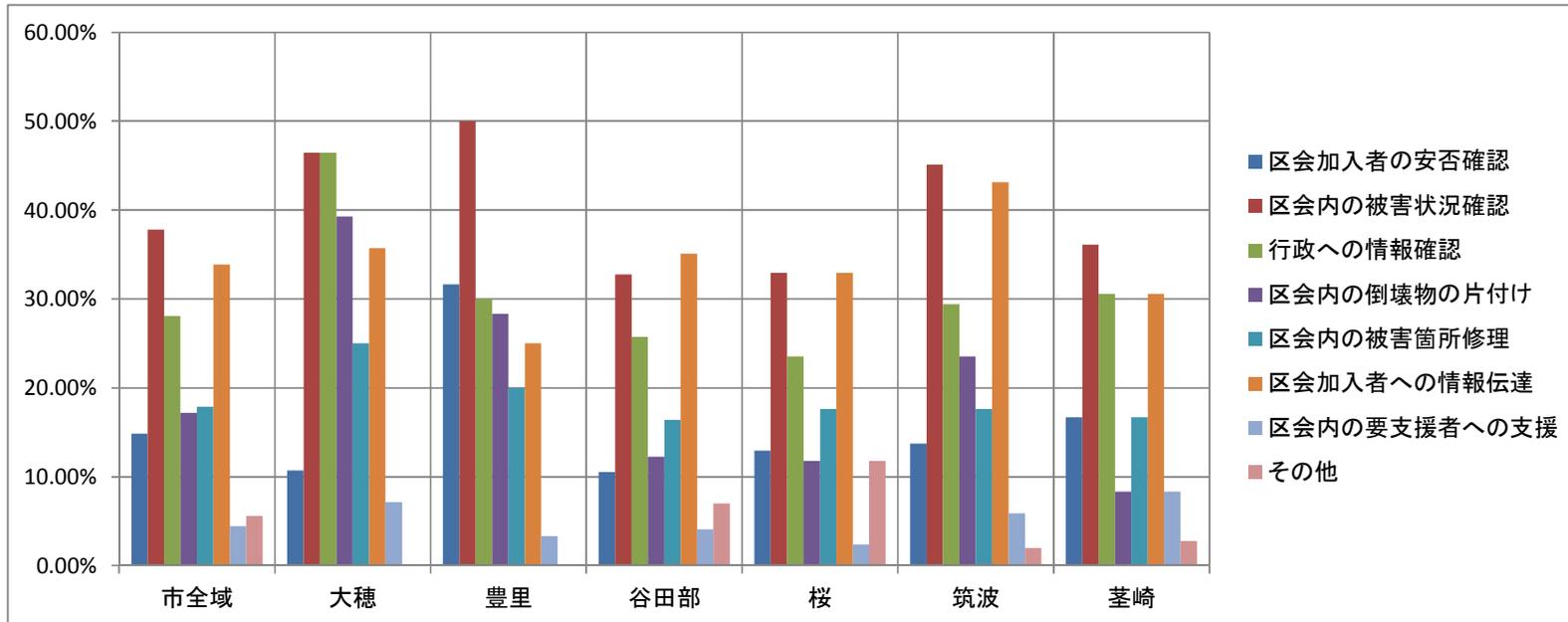
1-2-3.ライフライン復旧後の対応を選択して下さい (主要なものを最大3つまで)

■市全域の実数値



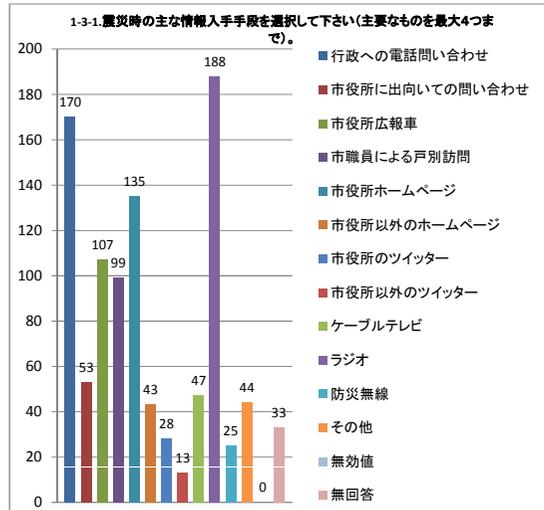
- 「区会内の被害状況確認」が多いことは、ライフライン復旧までと同様の傾向であるが、「区会加入者への情報伝達」の割合が全体的に高くなっている。
- 大穂・豊里地区では、引き続き「倒壊物の片付けや被害箇所修理」の割合も高い。

■地区別の割合



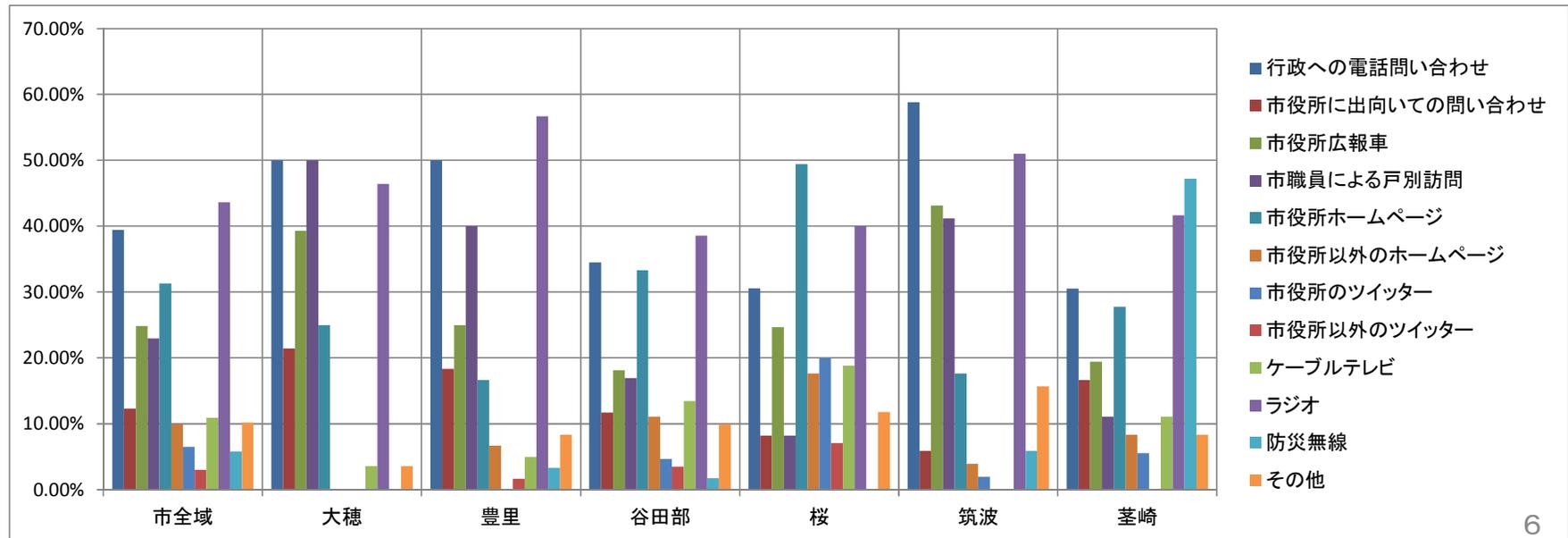
1-3-1.震災時の主な情報入手手段を選択して下さい (主要なものを最大4つまで)

■市全域の実数値



- 市全域では、「行政への電話問い合わせ」、「市役所ホームページ」、「ラジオ」の回答数が多い
- 大穂・筑波地区では「市役所広報車」と「市職員による個別訪問」の割合が高い
- 桜地区では「市役所ホームページ」の回答数が最も多く、荃崎地区では「防災無線」の利用が最も多い

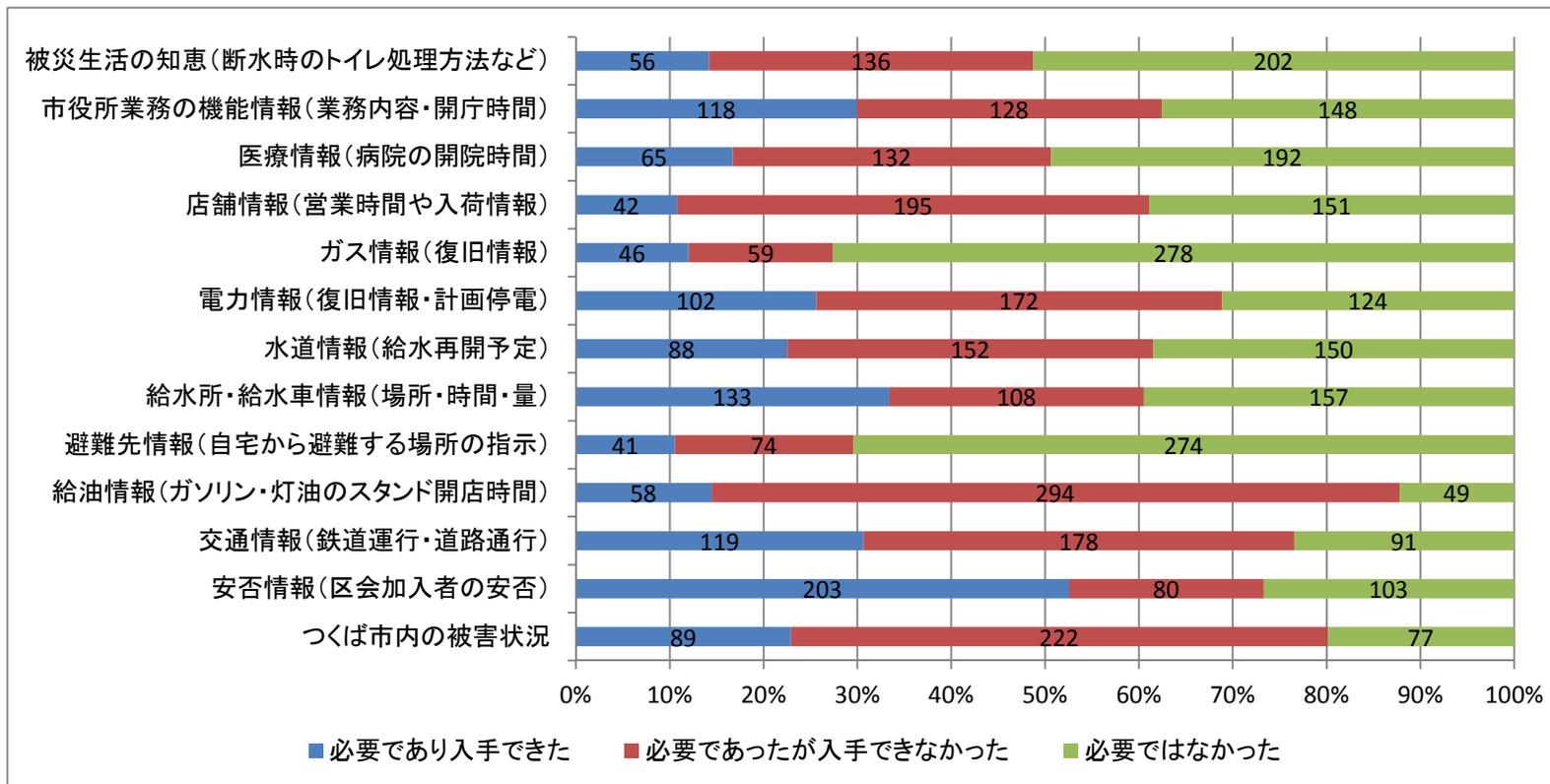
■地区別の割合



1-3-2 震災時に区会として必要とされた情報とその入手の可否

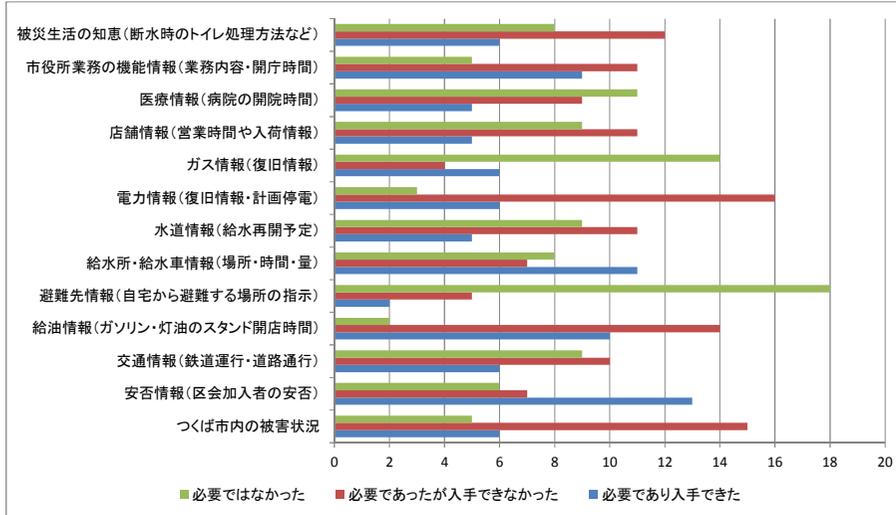
- 区会加入者の安否情報は、「必要であり入手できた」とする回答が50%を超えている。
- 「必要であるが入手できなかった情報」としては、「給油情報」や「つくば市内の被害状況」、「店舗情報」の割合が高い。

■市全域

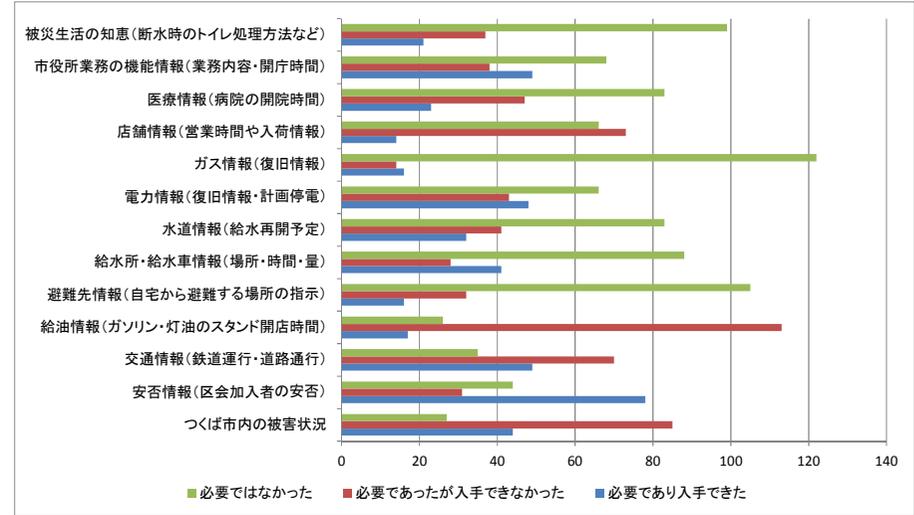


1-3-2 震災時に区会として必要とされた情報とその入手の可否

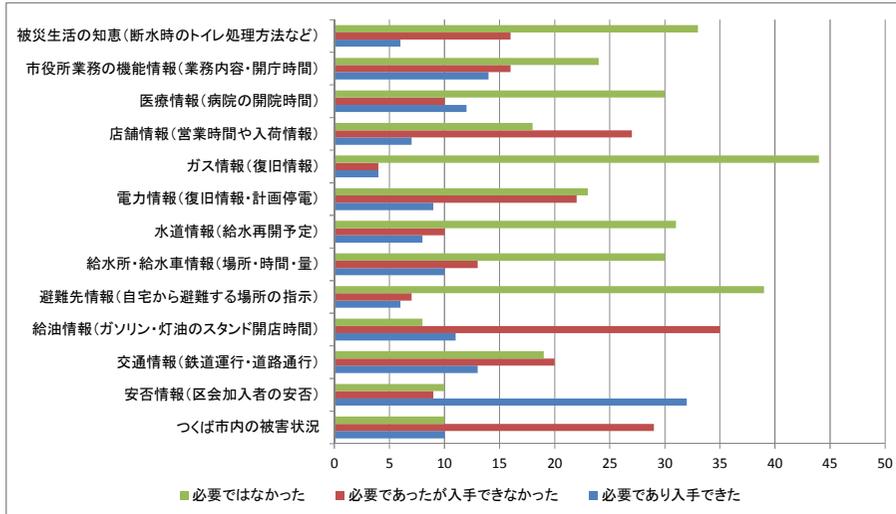
大穂地区



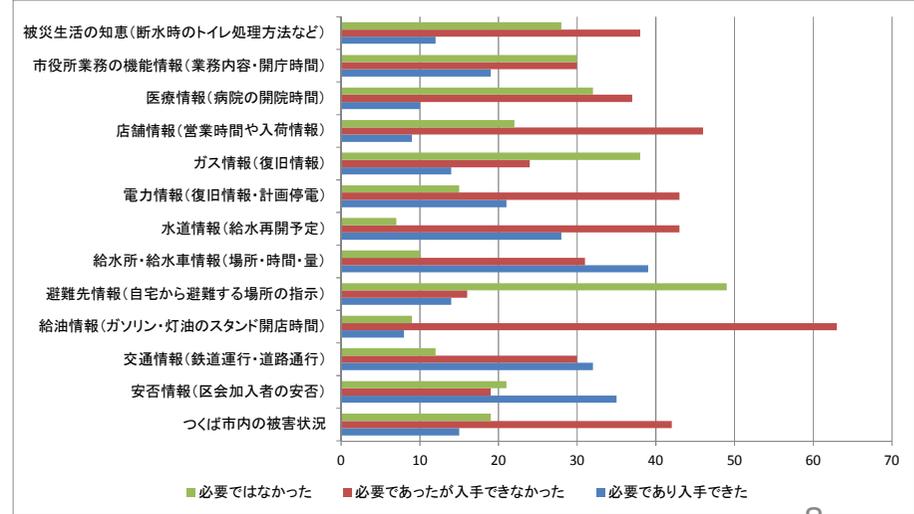
谷田部地区



豊里地区

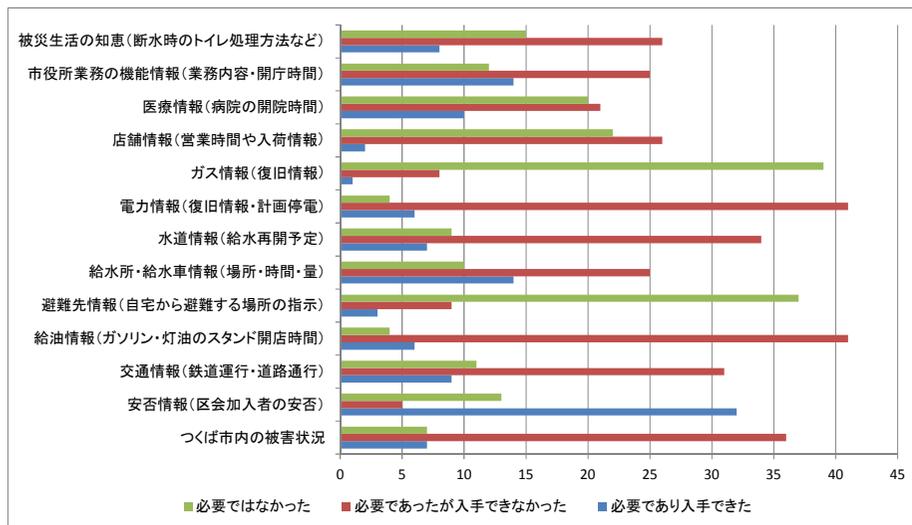


桜地区

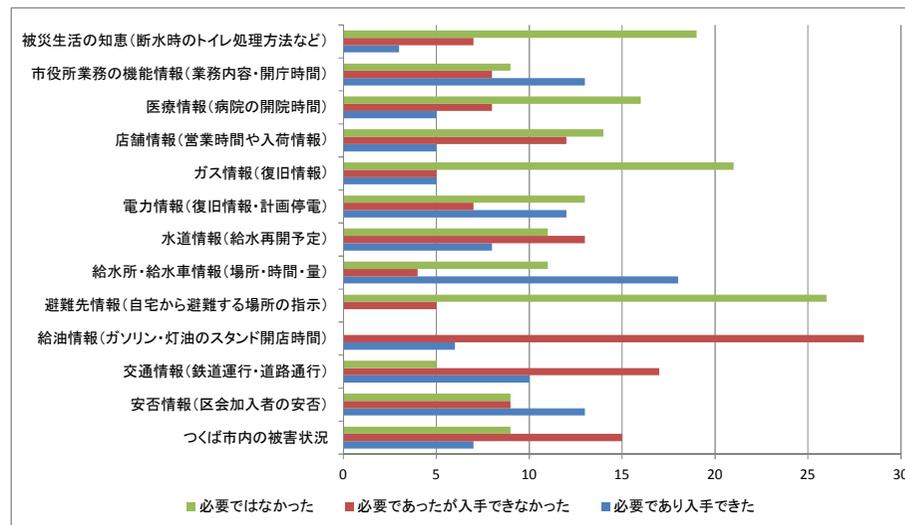


1-3-2 震災時に区会として必要とされた情報とその入手の可否

筑波地区

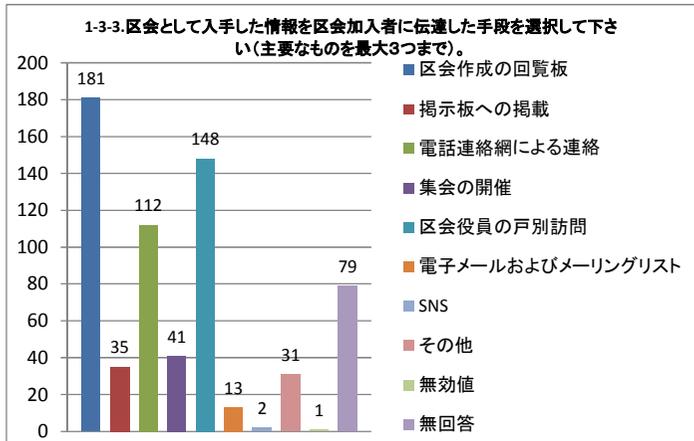


荃崎地区



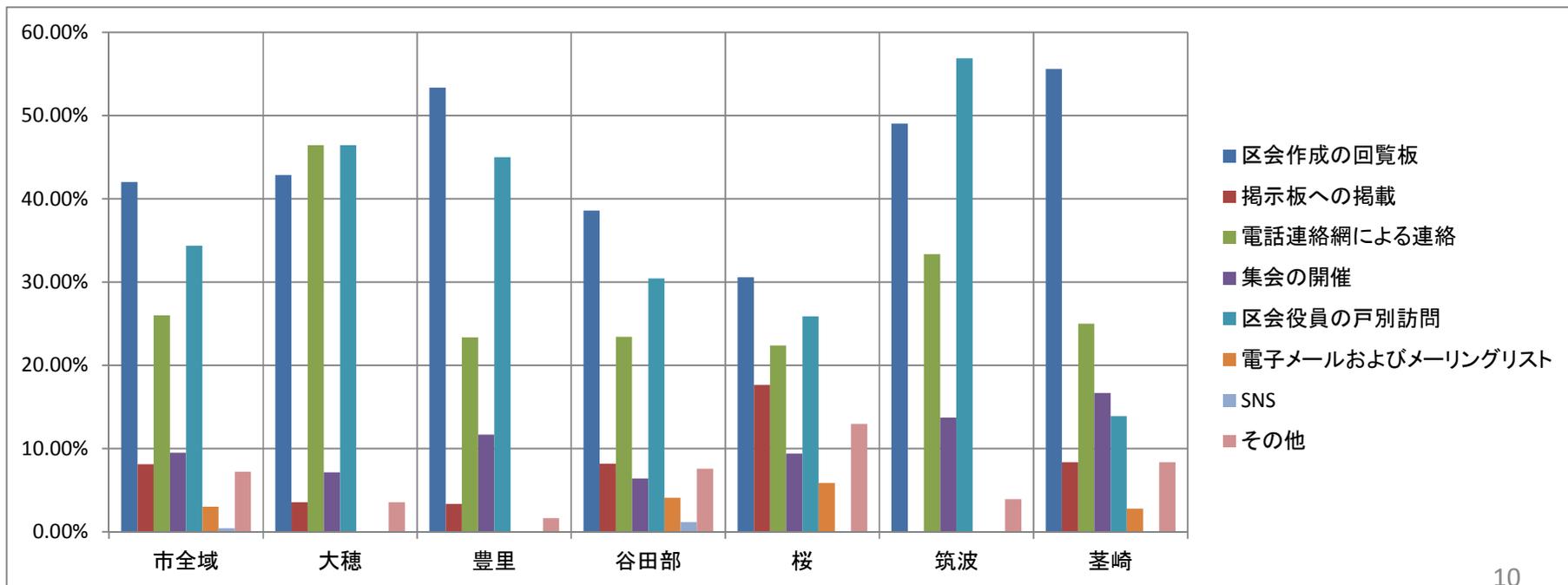
1-3-3.区会として入手した情報を区会加入者に伝達した手段を

■市全域の実数値 選択して下さい(主要なものを最大3つまで)



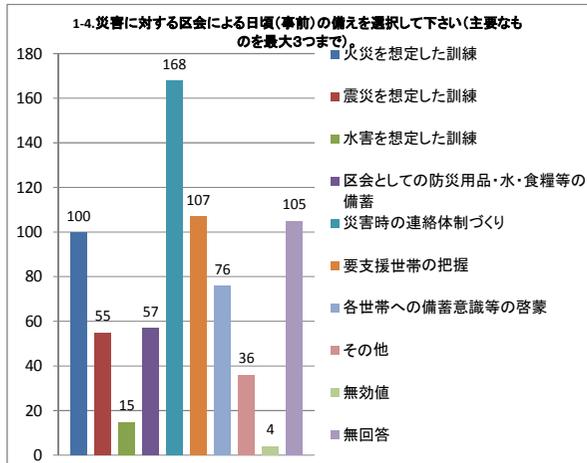
- 市全域では、「回覧板」、「役員の戸別訪問」、「電話連絡網」が多い。
- 大穂地区では、特に「電話連絡網」と「役員の戸別訪問」の割合が高く、筑波地区では「役員の戸別訪問」の割合が高い。
- 桜地区では掲示板への掲載の割合が他地区と比べて高い

■地区別の割合



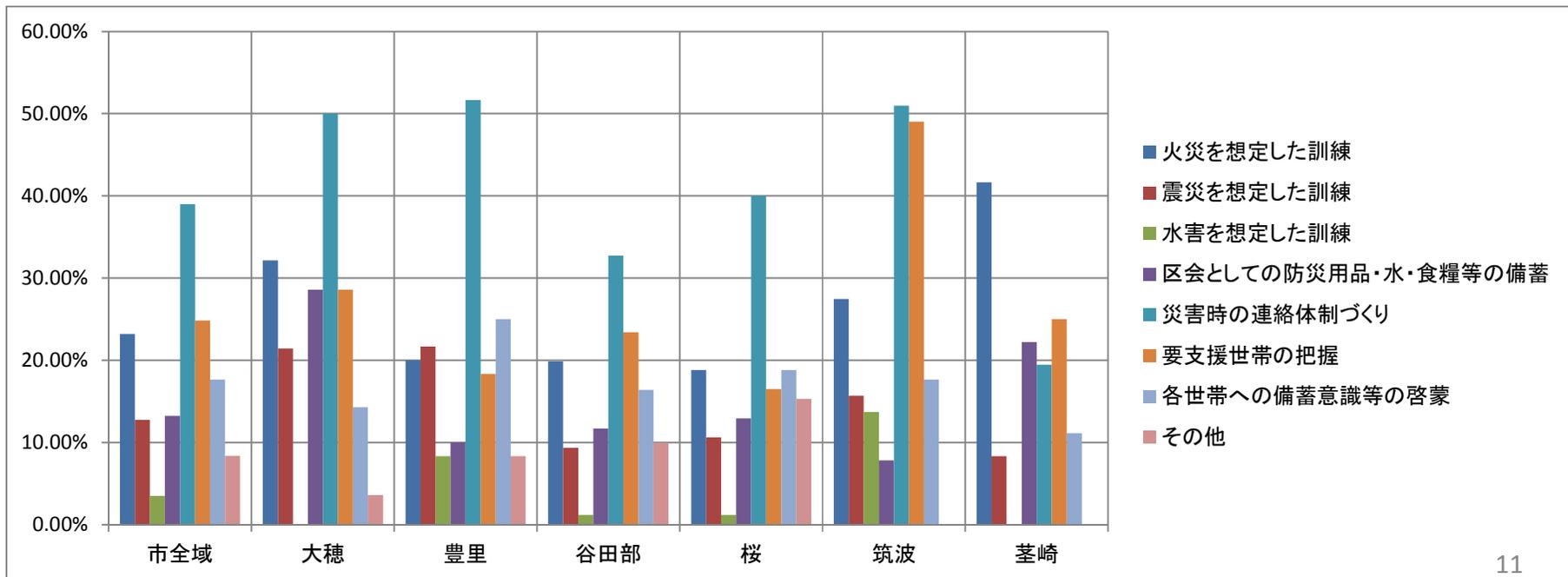
1-4.災害に対する区会による日頃(事前)の備えを選択して下さい(主要なものを最大3つまで)。

■市全域の実数値



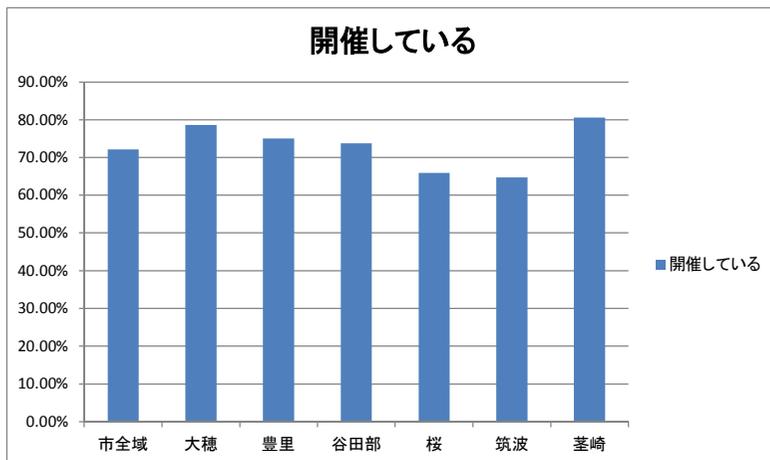
- 市全域では、「災害時の連絡体制づくり」、「要支援世帯の把握」、「火災を想定した訓練」の割合が高い。
- 地区別にみた場合でも、「災害時の連絡体制づくり」が高い割合を示すが、荃崎地区では、「火災を想定した訓練」の割合が最も高く、筑波地区では「要支援世帯の把握」が高い割合であった。

■地区別の割合



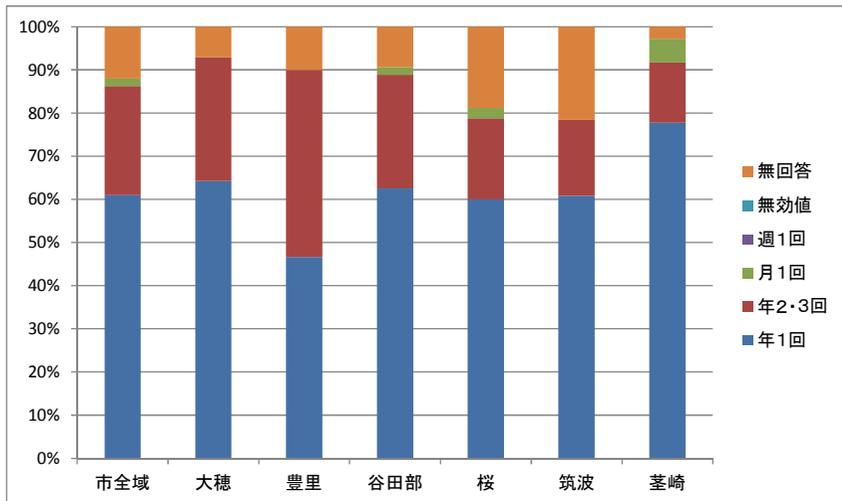
区会総会の活動頻度と参加状況

■ 区会総会を開催している

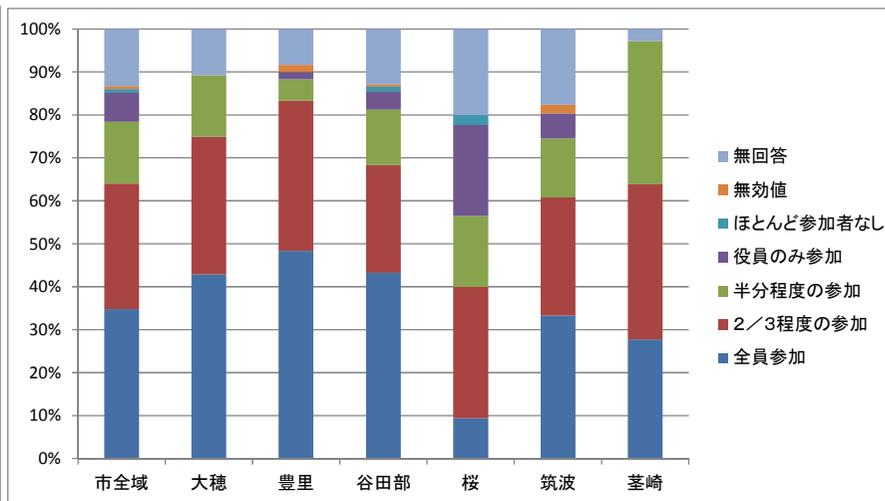


- 市全域、各地区とも70%前後が区会総会を開催している
- 各地区とも年1回の開催としたものが、60%前後である。
- 参加状況としては、桜地区以外、「全員参加」と「2/3程度の参加」で、60%以上を占めている。桜地区は全員参加の割合が低い

■ 活動頻度

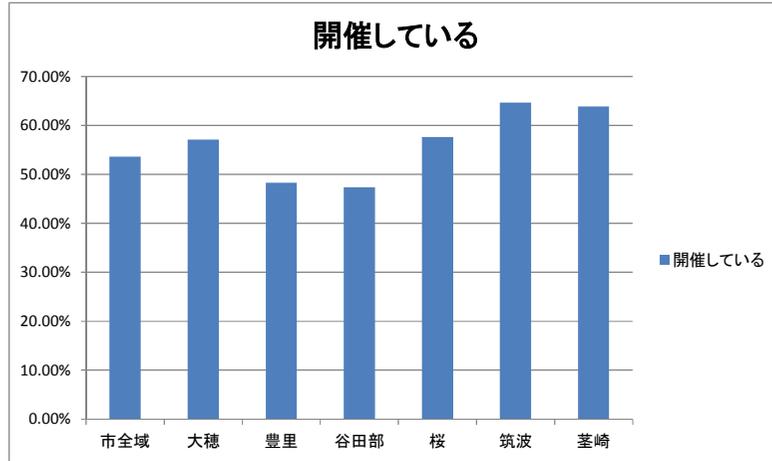


■ 参加状況



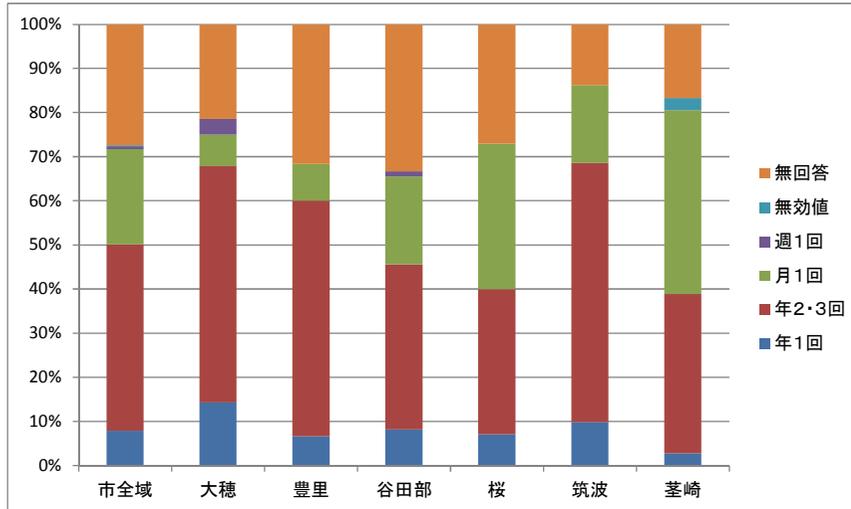
区会役員会の活動頻度と参加状況

■ 区会役員会を開催している

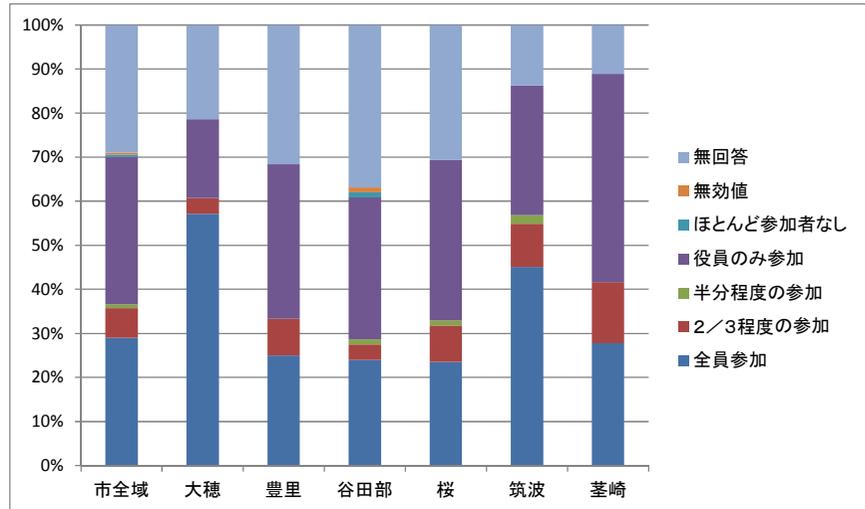


- 市全域で50%強、地区別で50%弱から60%強の開催率である
- 活動頻度は「年2・3回」が多いが、桜・荃崎地区では「月1回」の割合が高い。

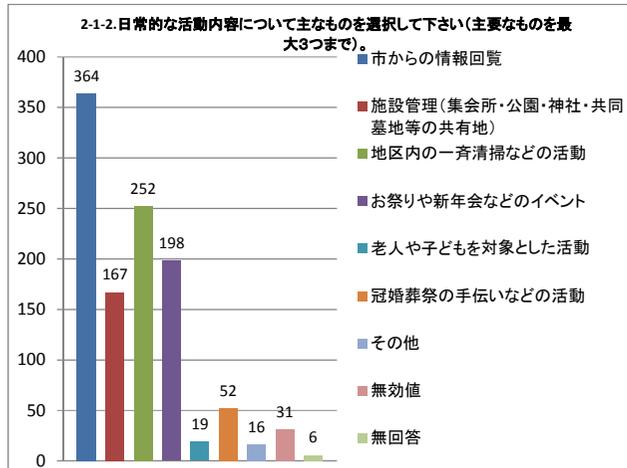
■ 活動頻度



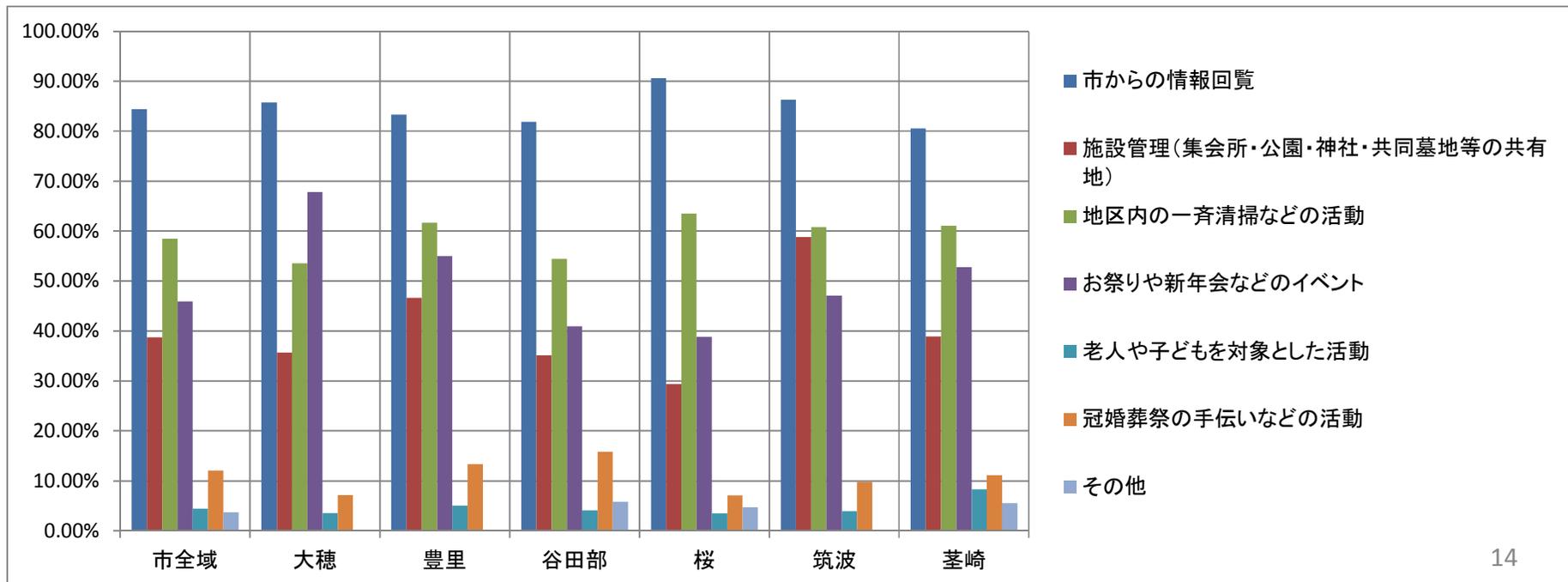
■ 参加状況



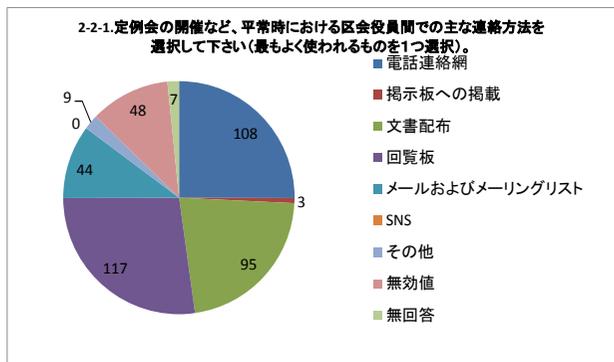
2-1-2. 日常的な活動内容について主なものを選択して下さい (主要なものを最大3つまで)



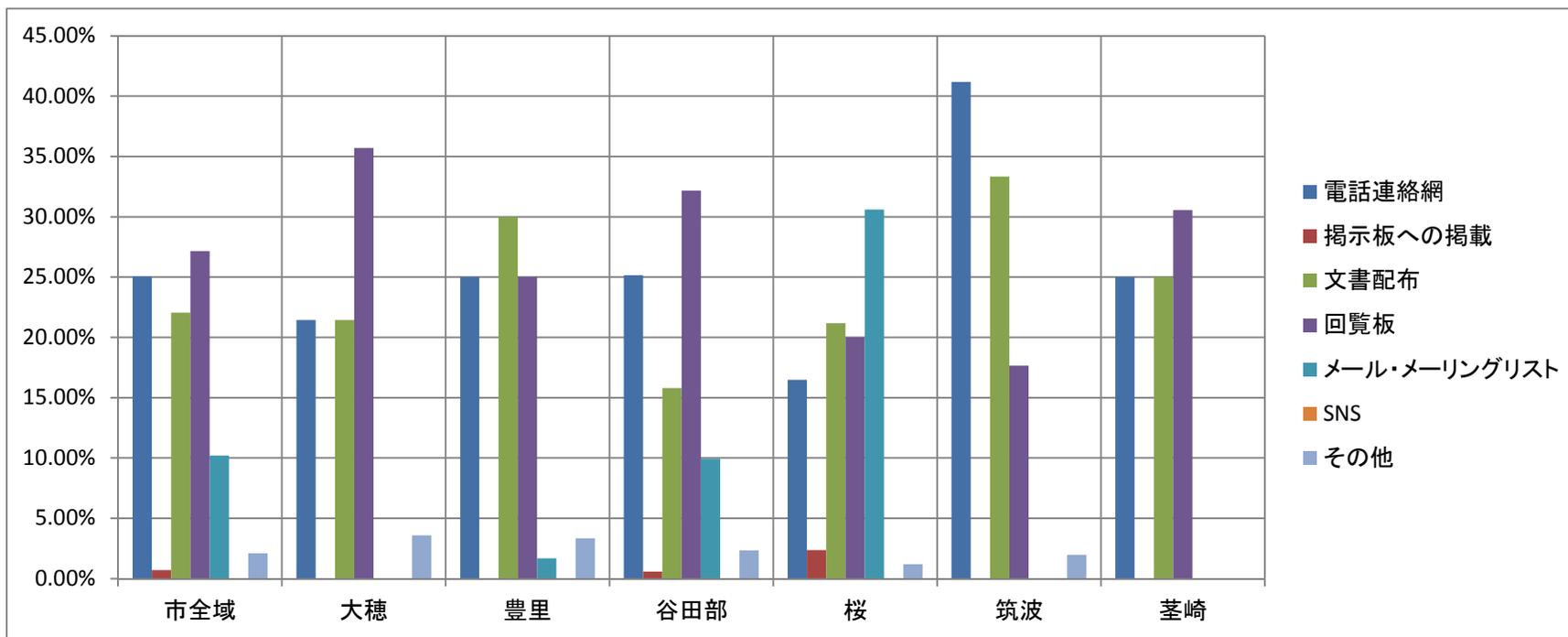
- 各地区とも「市からの情報回覧」が80%以上と高く、「地区内の一斉清掃などの活動」、「お祭りや新年会などのイベント」、「施設管理」が続く。
- 大穂地区で「イベント」の割合が高い傾向にあるが、各地区ともほぼ似通った傾向である



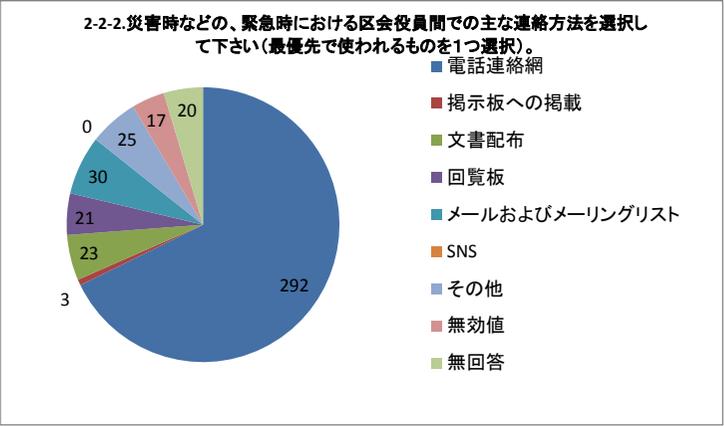
2-2-1.定例会の開催など、平常時における区会役員間での主な連絡方法を選択して下さい(最もよく使われるものを1つ選択)



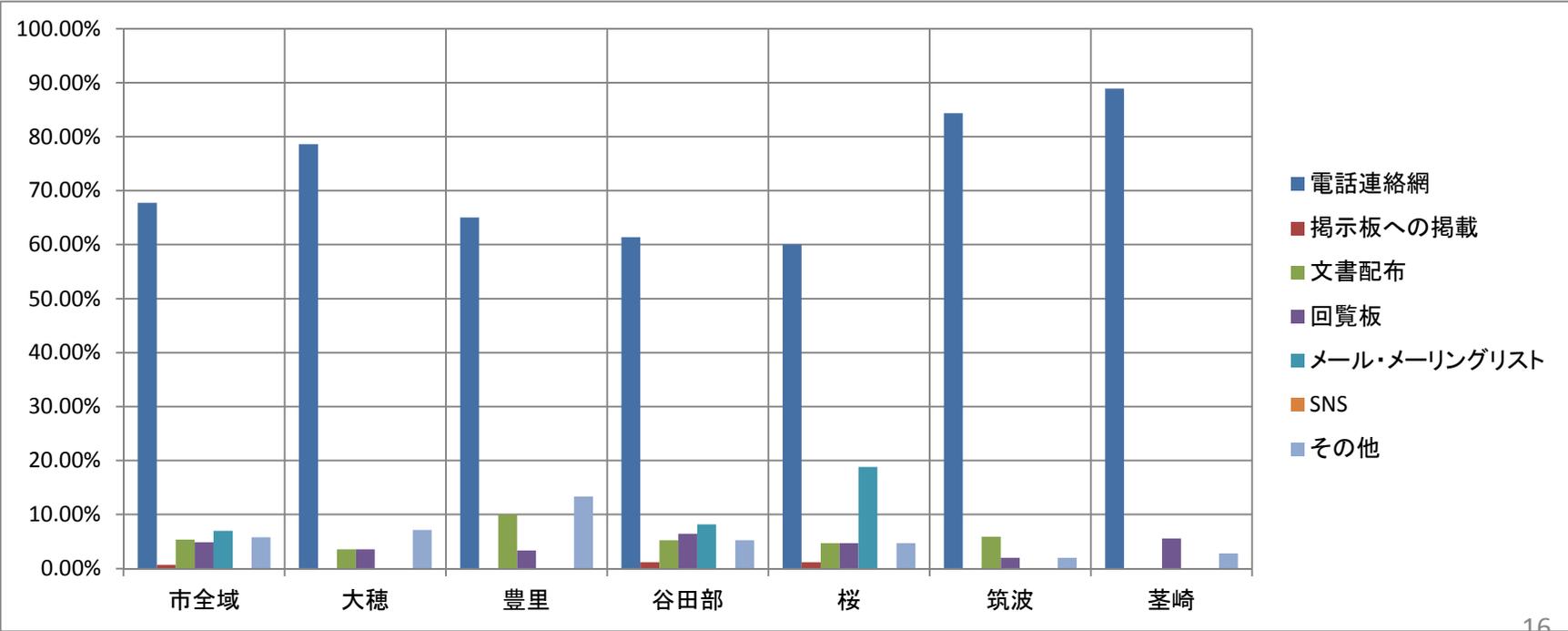
- 市全域では、「電話連絡網」、「文書配布」、「回覧板」がほぼ同様の割合を示している。
- 地区別では、大穂地区で「回覧板」、筑波地区で「電話連絡網」の割合が高い。
- 桜地区では「メール・メーリングリスト」の割合が最も高く30%を超えている。



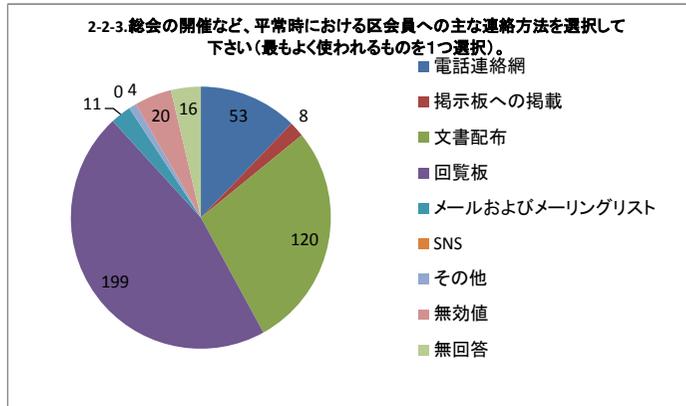
2-2-2.災害時などの、緊急時における区会役員間での主な連絡方法を選択して下さい(最優先で使われるものを1つ選択)



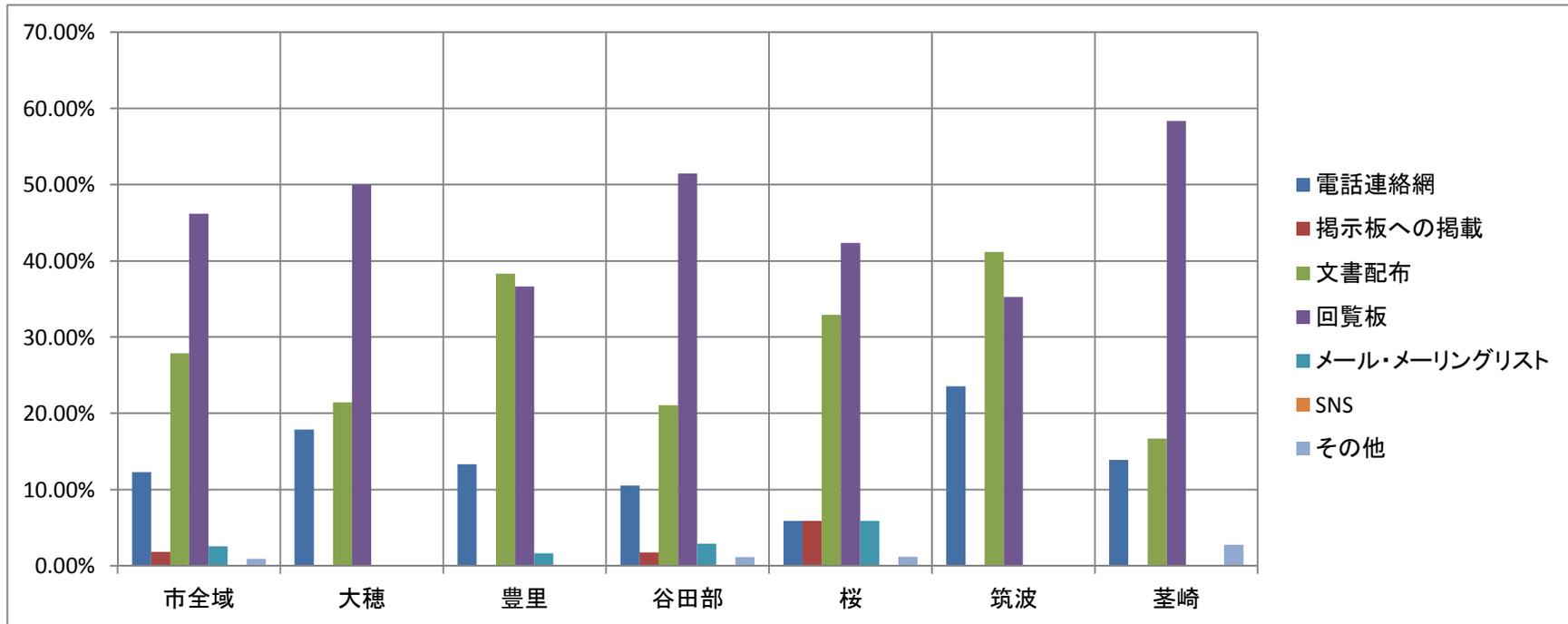
- 緊急時の役員間では、圧倒的に「電話連絡網」の利用が多い。
- 桜地区では「メール・メーリングリスト」の利用が約20%となっている。



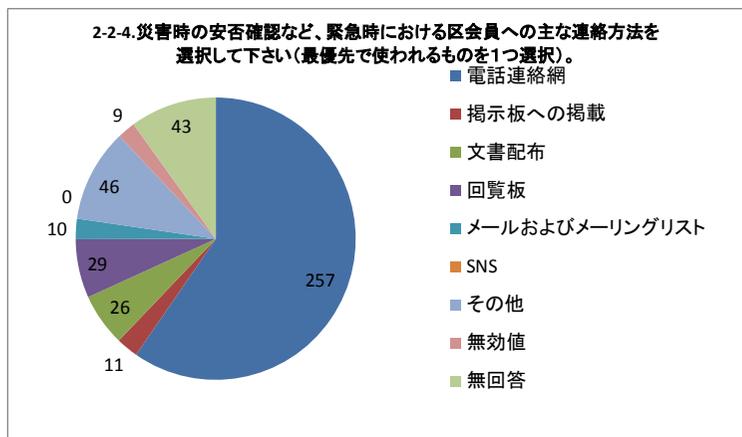
2-2-3.総会の開催など、平常時における区会員への主な連絡方法を選択して下さい(最もよく使われるものを1つ選択)



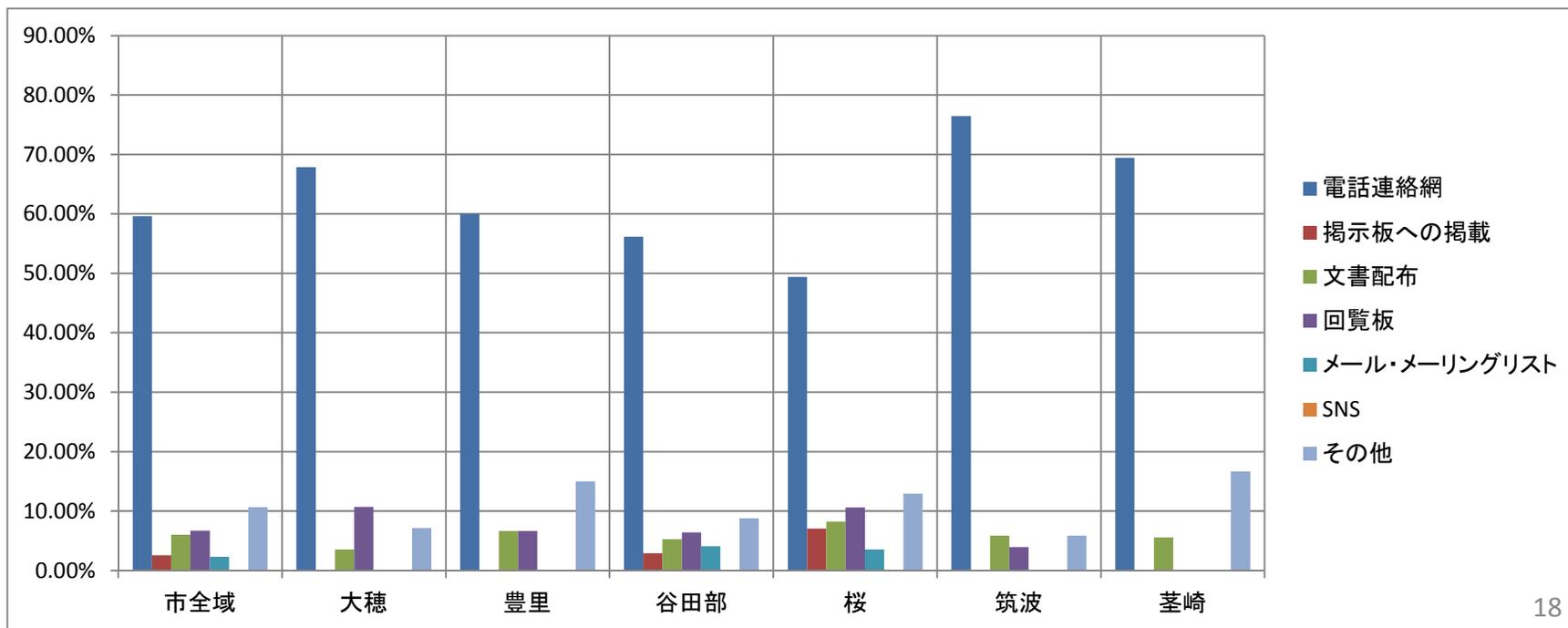
- 「回覧板」の利用が多いが、豊里・桜・筑波地区では、「文書配布」もほぼ同数みられる。



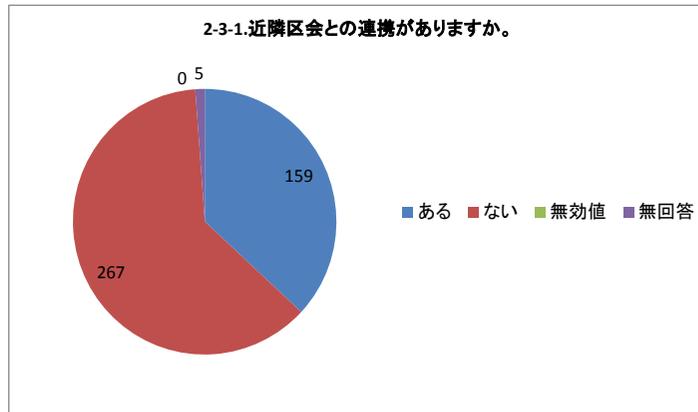
2-2-4.災害時の安否確認など、緊急時における区会員への主な連絡方法を選択して下さい(最優先で使われるものを1つ選択)



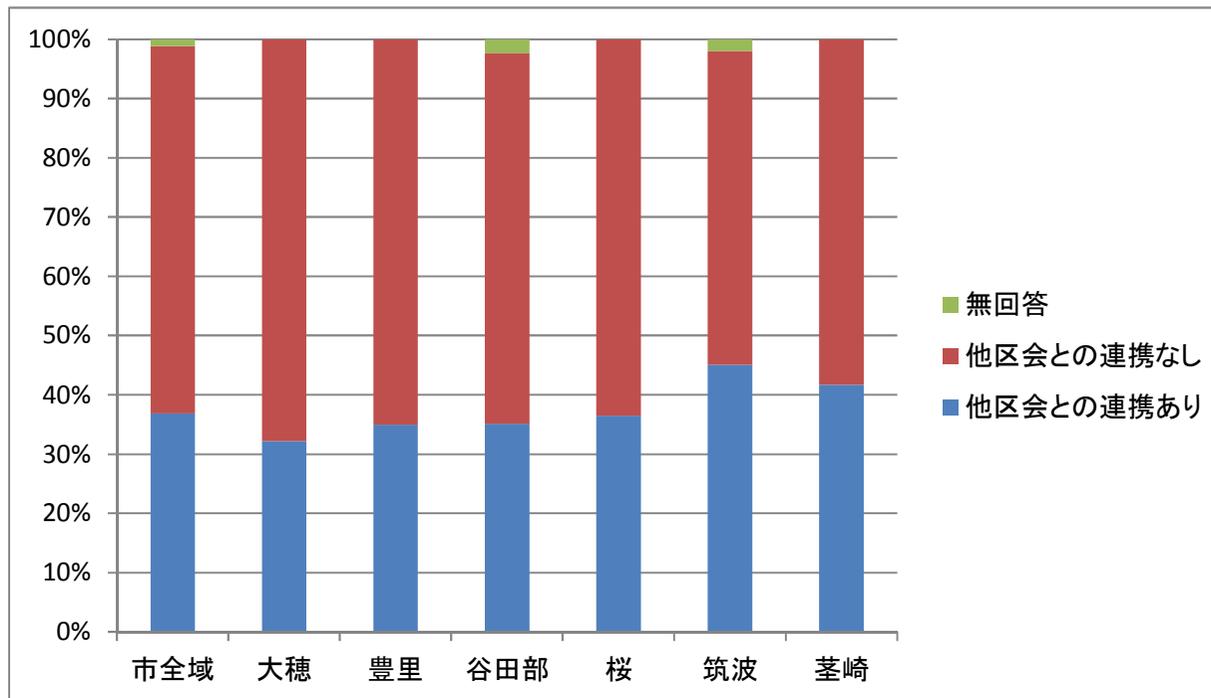
- 緊急時では、やはり「電話連絡網」の利用が圧倒的に多い



2-3-1.近隣区会との連携がありますか。



- 各地区ともほぼ同様に、30～40%前後の割合である。



2-4-1,2.区会規約(紙媒体)の有無と貸与可否

